

### 関西学院大学

#### 国連学生ボランティア (United Nations Student Volunteers)

關谷 武司 (関西学院大学)

芦田 明美 (関西学院大学)

鈴木 英輔 (関西学院大学)

#### ◆ 実施期間

平成 16 年度－現在 (6 年間)

#### 1. プログラムの概要と特徴

関西学院大学では、創立者の米国人宣教師ランバスの精神を示す「Mastery for Service (奉仕のための練達)」というスクールモットーを研究・教育の根幹としている。Mastery for Service には、「自己修養 (練達)」と「献身 (奉仕)」の両方を実現することに真の人間の生き方が存在するという意味が込められており、このスクールモットーの下、学生は自発的なボランティア活動を関東大震災の頃より行なっている。

このような学内環境を背景として、地球規模で様々な問題に取り組んでいる国連ボランティア計画 (UNV) と連携した「国連学生ボランティア」プログラムは、2003 年 6 月に UNV と協定を締結し、2004 年に開始された。当時、これは世界でもアメリカのジョージ・メイソン大学、スペインのマドリッド自治大学に次ぐものであり、アジアでは初めての試みであった<sup>5</sup>。

2007 年度までは、途上国における情報格差 (デジタル・デバイド) を縮小し、ヒューマン・デベロップメントに貢献することを目標とした「国連情報技術サービスボランティア (UNITeS)」として派遣してきた。2008 年度からは UNV の要請により、ICT に限らず国連ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成に貢献する内容へと変更して協定を再締結し、現在に至る。したがって、2008 年度以降は、教育、環境、保健等の分野にもボランティア派遣を行っている。開始当初から現在までの学生派遣数は 50 名を数える。

「国連学生ボランティア」プログラムは学内において、「世界の人々に貢献し、共生できる次代を担う人材の育成」を目指しつつ、「国際協力」を実践する教育プログラムとして位置づけられて

<sup>5</sup> 現在の参加大学は、スペイン Univesidad Autónoma de Madrid とそのコンソーシアム 26 大学、韓国 Korea Agency for Digital Promotion and Opportunity、および関西学院大学 (日本) である。他にも、過去には George Mason University (米国)、Univ. of Benin (ベニン)、Universidad de Colima と地域ネットワーク 12 大学 (メキシコ)、Institut Supérieur d'Informatique et de Gestion (ブルキナファソ)、Makerere University (ウガンダ)、Vietnam National University (ベトナム)、Ateneo de Manila (フィリピン) が参加していた。

※ベニン、メキシコ、ブルキナファソ、ウガンダ、ベトナム、フィリピンの大学へは日本、ドイツなどのドナーから財政支援があった。

いる。

#### ◆ プログラム運営の組織形態（事務局ならびに教職員体制）

本プログラムの運営にあたっては、コーディネーター1名、ジョイント・コーディネーター4名をいずれも教員が、ロジスティックサポートを事務職員1名が担い、計6名体制で実施している。

#### ◆ プログラム準備・調整のプロセス

派遣の前年末に派遣候補生の募集が行われ、書類選考と面接試験によって派遣候補生を決定する。選考の結果、派遣候補生となった学生は教員による事前研修を中心に、派遣に向けて準備を行うこととなる。これまでの開講担当者による主な事前研修の内容は以下の通りである。

- 国際関係、途上国事情、国際機関、国連 MDGs に関する概説
- 画像編集、コンピュータ・ネットワークの基本、セキュリティ対策などの ICT 関連の実習
- プロジェクト立案・形成、モニタリング・評価手法に関する指導
- 途上国における生活および安全に関する指導
- 英文履歴書作成および電話インタビュー対策指導
- プレゼンテーション、レポート作成に関する指導

事前研修と並行して、各派遣候補生は英文履歴書を作成し、ドイツ・ボン市にある UNV 本部に提出する。UNV 本部では、各国 UNV 現地事務所を通してニーズの発掘を行い、寄せられた Terms of Reference(TORs) <sup>6</sup>とのマッチングを行う。その後、UNV 現地事務所および受入機関担当者から派遣候補生に対し電話インタビューが実施され、それに合格すると派遣が決定する。

受入機関の要請と派遣候補生の能力・経験が不適合である場合、国際情勢や現地状況によって派遣が困難である場合など、諸事情によって派遣できない可能性もあるが、現在までのところ派遣候補の学生全員を送り出すことができている。

派遣期間については年二回に分けられており、春学期派遣：4月～9月の期間内の約5ヵ月間と、秋学期派遣：9月～翌年度3月の期間内の約5ヵ月間である。この二期制の採用は、学部学生の4年間での卒業を可能とすること、および学士課程3、4年生および博士課程前期課程1、2年生の多くが就職活動に関わらなければならない事情に配慮した形となっている。

#### ◆ プログラムの具体的内容

これまで、アジアを中心に7カ国に学生を派遣してきた。受入機関は、UN 現地事務所、現地政府機関、現地 NGO 等である。業務内容の多くは、スタートが UNITeS であったため、WEB サイトの作成、運営、改訂等、ICT 関連の業務が多い。

これまでの派遣実績表を以下に示す。

---

<sup>6</sup> 業務内容を規定したドキュメント。

表 1 国連学生ボランティア関学プログラム派遣実績

時期	派遣国	派遣機関の種類	派遣機関の事業分野	人数	学生ボランティアの主な業務内容	
2004 年度	春学期	スリランカ	現地 NGO	地域開発	3名	PC 教室設営・運営、英語・算数教育
	秋学期	スリランカ	現地 NGO	地域開発	2名	PC 教室設営・津波災害緊急支援
		ベトナム	政府機関	農業開発	1名	ICT 事情調査・PC 寄付事業
		モンゴル	現地 NGO	IT 産業振興	2名	WEB サイト作成 ICT 産業の ICT 事情調査、イエローページ作成
2005 年度	春学期	スリランカ	UN 事務所	災害復興	1名	災害ボランティア DB 作成
		モンゴル	現地 NGO	IT 産業振興	2名	多言語 WEB サイト作成・改訂・教育事情調査
	秋学期	ネパール	現地 NGO	就業支援	1名	PC 指導、WEB サイト作成、英語教育
		フィリピン	現地 NGO	華僑コミュニティ支援	2名	WEB サイト改訂、オンラインカタログ作成
				自然農業	1名	WEB サイト作成、教材作成
				ボランティアマッチング	1名	WEB サイト改訂
	モンゴル	現地 NGO	IT 教育振興	1名	モンゴル語版 Linux (1CD 版含む) 作成、Linux 啓発イベント	
	2名			IT 日本語教室設営・運営、IT 関係者マッチングイベント企画		
	1名			地域テレセンターでの PC 活動指導		
2006 年度	春学期	フィリピン	現地 NGO	大気汚染	1名	WEB サイト作成
			政府機関	IT 教育振興	3名	PC 教室補助、教材作成
			現地 NGO	ボランティアマッチング	1名	オンライン・ボランティアマッチング DB 開発
				青年活動支援	1名	初等教育における PC 指導
	秋学期	モンゴル	現地 NGO	IT 教育振興	2名	Linux 上の教育用ソフトのモンゴル語化、Linux 啓発イベント
				一村一品運動	2名	製品紹介パンフレット作成 観光ガイドブック作成
					2名	製品 DB 作成、観光ガイドブック作成
2007 年度	春学期	ベトナム	政府機関	産業振興	1名	WEB サイト作成、ネットワークシステム設営
		モンゴル	現地 NGO	一村一品運動	2名	製品 DB 作成、観光ガイドブック作成
	秋学期	キルギスタン	現地 NGO	紛争解決	1名	WEB サイト以降にともなうスタッフ教育支援

				キャパシティビルディング	1名	英会話教室の運営、教材作成
				市民社会支援	1名	スタッフ研修用資料作成
				UN 事務所	ボランティアマッチング	1名
		マダガスカル	UN 事務所・国際 NGO	公衆衛生	1名	写真撮影画像編集、ポスター製作
		モンゴル	現地 NGO	一村一品運動	1名	市場調査、WEB サイトの日本語訳
				IT 産業振興	1名	IT 日本語教室運営・オンラインアンケートシステム作成
2008 年度	春学期	キルギスタン	現地 NGO		1名	WEB サイト作成、マーケティング調査
				糖尿病支援	1名	英会話教室の運営、教材作成
	秋学期	キルギスタン	現地 NGO	高齢者支援	1名	写真撮影・画像編集、スタッフ PC 指導
				環境啓発	1名	NGO 立ち上げ支援
				高等教育	1名	英語教育
		児童教育・保護	1名	WEB サイト作成		
2009 年度	春学期	キルギスタン	現地 NGO	環境啓発	1名	WEB サイト作成
				公衆衛生	1名	妊婦・乳幼児の栄養に関する社会調査
	秋学期	キルギスタン	現地 NGO	難民支援	1名	広報活動、WEB サイト運営
				環境啓発	1名	スタッフ研修、WEB サイト運営

#### ◆ 学生のプログラム参加要件

応募資格として以下の 5 点が派遣候補生募集前に学生に提示される。

- ① 派遣時に満 20 歳以上である学部 2 年生以上または大学院生であること。
- ② 出願時の学業成績平均点が最低 75 点程度であること。
- ③ ITP-TOEFL500 点 (CBT-TOEFL173 点/iBT-TOEFL61 点)、TOEIC630 点相当の英語力を有すること。また、英語以外に活用できる外国語能力を有する場合、選考やマッチングの際に有利になる。
- ④ 開発途上国の厳しい生活環境や異文化環境においても心身の健康を維持し、困難な状況に対応できること。
- ⑤ 国際協力や開発に関する基礎的知識をもち、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) 達成に向けた活動分野において実践的応用力を発揮できること。

さらに、先修条件として国際発展や国際協力に関連する科目の履修に加え、各種ボランティア活動等の課外活動経験を積むことが望ましいとしている。

#### ◆ 単位認定の要件・方法

学部では、科目名「国連学生ボランティア実習」(12 単位) が認定され、科目名「国連学生ボ

ランティア課題研究」(4単位)が素点評価される。大学院では、科目名「国連学生ボランティア特別実習」(6単位)が認定され、科目名「国連学生ボランティア特別課題研究」(2単位)が素点評価される。

上記の単位を得るために、学生は現地において毎週月曜に週間レポート(Weekly Report、英語での記載)をボランティアプログラム担当教職員に提出する。これは現地での業務や生活状況を報告するものであり、派遣期間中盤には中間レポートを、派遣終了後には最終レポートを提出し、帰国後、帰国報告会にて自らの業務成果を発表する。最終レポートを提出することで、UNVより Certificate of Appreciation が授与される。

#### ◆ プログラムの財政状況(予算(含・外部資金)、奨学金、等)

本プログラムは関西学院大学独自の予算、日本私立学校振興・共済事業団からの私立大学等経常費補助金特別補助、そして参加学生の自己負担により運営されている。

参加学生の自己負担は、往復渡航費、現地滞在費、査証取得関係費、旅行傷害保険費、予防接種費等のボランティア派遣に必要な経費であるが、この学生負担を軽減するために、大学は30万円/人を奨学金として支給している。また、これ以外にも大学は、UNVへサポートコストとして600ユーロ/人等を支払っている。

2008年度の派遣を例にとれば、学生6人を中央アジアキルギス共和国へ派遣し、プログラム支出総額は約300万円であった(関係する教職員の人件費は含まない)。私立大学等経常費補助金特別補助から約90万円補助を受けたので、大学の自己負担は約210万円である。学生が奨学金を超えて自己負担したプログラムに直接関わる実質額は概ね10万円程度であった。

## 2. 国連ボランティア計画の役割

本「国連学生ボランティア」プログラムのマネジメント機関は国連ボランティア計画(UNV)である。UNVは、国連機関の中の唯一のボランティア派遣機関として、ミレニアム開発目標達成のため、「人間開発」を旗印に、開発努力の有効性向上に向け、奉仕の精神を促進する機関であり、本部はドイツのボンにある。

学生が派遣される国には現地のUNV事務所があり、仕事面や生活面に関する学生へのサポートを行う。仕事面においては進捗状況の報告を学生から受け適宜アドバイスをする。生活面においては、UNVの定めた安全基準を満たしている住居を手配し、現地において生活する上での注意事項等を含めたセキュリティー講習を提供する。派遣期間終了までUNV現地事務所は派遣学生への上記等のフォローを行う。

### ◆ 連携・調整を行う上での課題

UNV の本来業務である「国連ボランティア」の派遣数は、5 年前までは年間 4000 人程度であったが、現在では 8000 人近くに急増している<sup>7</sup>。近年は、それに加えて、本学生ボランティアやインターンシップ<sup>8</sup>、企業とのパートナーシップ等<sup>9</sup>も運営されている。しかしながら、従事するスタッフの人員は増員されていないため業務過多となり、早急に業務のスリム化と組織改編が必要となっている。

UNV では 2009 年よりそのための業務内容のレビューが行われているが、関学プログラムに対しても、UNV 側の運営効率向上のため派遣手続きを簡略化すること<sup>10</sup>、派遣学生数を増加させること、派遣期間を最低でも 6 ヶ月間確保することなどが要望されている。また、UNV の本来のマネジメントに照らし、開発途上国の青年の支援に対する協力も求められている。

### 3. スペインプログラムの概要

スペインでは、マドリード自治大学 (UAM) が 2002 年より UNITeS プログラムを開始した。2006 年から他大学とコンソーシアムを形成し、スペイン国際協力庁や地方自治体等の財政支援を得て MDG 達成に向けた学生ボランティア派遣を行った。2009 年現在 26 の大学とコンソーシアムを形成している。現在のプログラムの実施プロセスを 2009 年を例に概観すると、以下のようになる。

2 月、参加 27 大学でプログラムポストの予算獲得状況と実施計画についてのミーティングを行った。その結果 2009 年派遣は、スペイン援助庁<sup>11</sup>から 30 ポスト分、地方自治体と一部の大学から 15 ポスト分、計 45 ポスト分の予算が確保された。一人当たりの経費は 6,600 ユーロ (サポートコスト€600 含む) で、総額 297,000 ユーロになる。そして、2 月末 UAM から UNV 本部へ TORs の要請が行われた。UNV 本部では、地域担当を通して 6 週間をかけてニーズの発掘を行う。

4 月、UNV 本部は 45 ポスト分の TORs を UAM へ送り、UAM はそれらを各大学へ通知した。各大学では学内 WEB に情報をアップロードし、3 週間公示された。学生は、自分の希望に応じて第 2 希望までの TORs に対して、英語と現地語それぞれで作成した応募動機書と履歴書を提出する<sup>12</sup>。

<sup>7</sup> 日本人の国連ボランティア派遣数はおおよそ年間 100 人程度である。うち 15 人は青年海外協力隊経験者用の枠である。

<sup>8</sup> 2001 年、イタリア政府が資金を提供し 15 名の大学卒業者を 11 カ国の UNV ローカル事務所へ派遣した。現在まで、スイス、ベルギー、チェコ、アイルランドが参加している。2009 年の派遣者は 61 名で、これまでの累積派遣数は 346 名である。

<sup>9</sup> 正式名称は Corporate/Private Sector programme といい、レギュラーの国連ボランティア枠を利用して派遣されている。2009 年の派遣者は 61 名。累積派遣数、346 名。

<sup>10</sup> 単に派遣手続きの簡素化だけではなく、UNV が基本としているのは Demand based のボランティア派遣であり、学生ボランティアのニーズ発掘が Supply based になりがちなのを是正する必要も求められている。

<sup>11</sup> スペインには日本の協力隊や米国の平和部隊などのような、若者をボランティアとして海外派遣する制度はない。ゆえに、学生ボランティアの派遣について支援する動きが可能となる。援助庁からのポストはスペインの開発途上国支援戦略に則り、行き先指定のものもある。

<sup>12</sup> 通常、各大学では 30~50 人程度の応募がある。平均 40 人としても、全体では 1,000 人を越える応募者があることになる。

各大学では5月末に書類と面接選考が行われ、この時点で5人、コンソーシアム全体では5人×27校=135人に絞り込まれた。UAMは応募者がいないポストが無いように調整し、応募動機書と履歴書をUNV本部へ送付する。UNV本部はそれらを審査し、各国UNV事務所へ送付する。

各国UNV事務所は受入機関に情報を提供し、受入機関は書類に基づいて複数の候補者を選考する。そして6月末に電話インタビューを実施し、派遣候補者が決定される<sup>13</sup>。

9月、UAMにおいて彼らに向けて、MDG、IT、環境、一般的開発問題、地域の問題などに関する5日間のセミナーが実施された。その後、UNV本部でスキームやセキュリティーマターについて2日間のセミナーが実施された。

10月、学生ボランティアとして任地へ向けて出発し、UAMは最初の2週間、モニタリングを実施する。

#### 4. スペインのプログラムとの比較から見えてくる関学プログラムの課題

##### ◆ 就職活動による弊害

受入機関から学生に対して要求される業務内容のレベルは高い。スペインの場合、最終学年の学生か大学院生がこれに臨む。しかも、言葉と文化については母国と大差のない旧植民地の国へ多くの者が赴任する。

一方、日本では就職活動が3年生後半から本格化し、4年生の前半まで続くのが常態化している。院生の場合でも同様に就職活動が本来の学業に多大な圧迫となる。ゆえに関学生の場合、能力を高め、経験も積んできた学生の参加が非常に限られてくる。

##### ◆ 事前研修の限界

潜在的な能力において、関学生がスペインの学生に劣ると考える根拠はない。しかし、前項のハンディキャップを背負って、派遣国でスペインからの学生と対等な貢献を果たすのは容易ではない。関学では、スペインで行われている派遣前研修よりも充実した事前研修が行われている。しかしながら、通常の授業スケジュールの合間を縫って短期間に詰め込める知識・技能・経験には限界があり、両者のギャップを埋めるには明らかに不十分である。

##### ◆ プログラム運営費負担

前述の通り、スペインでは外部資金を獲得することがプログラムスタートの前提になっている。それにより大学の費用負担が少ないだけでなく、学生負担も無い。他方、関学では費用の大部分を大学が負担し、私立大学等経常費補助金特別補助を受けても学生負担を避けられない。

---

<sup>13</sup> 1ポストあたりの平均競争率は $45 \div 135 = 3$ 倍。2009年に学生を派遣できた大学は、27校中20大学であった。合格者の3~4割は大学院生で、残りのほとんどは4年生である。4割~5割は旧植民地であるラテンアメリカへ赴任する。

## 5. プログラムの将来計画

上記に挙げた課題や、UNV が求める要求に対応するために次のような将来計画を検討している。

### ① 学生の能力・経験の向上：コース化（副専攻制など）

UNV 側の学生ボランティアに求めるレベルはさらに高くなりつつあり、スペインの学生レベルに追いつくためにも現行の派遣前研修での対応だけでは学生の能力や経験を高めることは極めて厳しい。このプログラムに関心を抱く学生は 1 年生でも多く、中には高校時代から関心を持ちこのプログラムに参加するために本学に進学してきた者もいる。

より効果的に学生の能力と経験を向上させるには、入学直後から戦略的・系統的に学生を鍛えていくことが望まれる。いかなる分野を専攻しようと、これからのグローバル化社会で活躍できる学生を育成するために必要と考えられる科目を網羅した副専攻制などのコース化が有効であろう。

### ② 派遣学生数の増加：コンソーシアム化

スペインでは、マドリード自治大学が核となり、26 大学とコンソーシアムを形成している。昨年では全体で 45 名の学生を派遣しており、UNV 側から見れば効率的な運営と言える。日本でもすでに派遣のノウハウがある関学が中心となってコンソーシアム化を進めることは可能であろう。

### ③ 派遣手続きの簡略化：TORs 先行方式

派遣手続きに関しても、スペイン方式のように TORs に基づいて派遣希望者を募集する方向での検討を行っている。UNV 側から学生が応募しやすい TORs が送られてくることが前提条件だが、簡略化することでスムーズな派遣に繋がるならば、最低限 6 ヶ月の派遣期間を確保することにも繋がるであろう。

## 6. 国際協力分野におけるグローバル人材の育成についての意見や課題

国連学生ボランティアプログラムに興味を持っていたが、出願には至らなかった学生に対しその理由を調査し、図 1 および図 2 にその結果を示した。

この結果を踏まえて、学生が海外に出る候補として考える以下の 3 つのプログラム<sup>14</sup>について、学生が重視するであろう選択基準に照らして比較してみた。

仮に、文部科学省が国際協力分野へ進む人材の輩出を増加させるため、国連学生ボランティアプログラムを支援し、他のプログラムよりも魅力的なものとしようとするならば、どのような支援策が有効であろうか。

期間的には特段他のプログラムよりも不利に映ることはない。単位認定も行われるため、卒業にも直接の悪影響はない。参加資格がどれよりも厳しいが、その分今後には繋がると考えられており、系統的な教育プログラムがあれば課題は解決されよう。

しかしながら、奨学金は支給されるものの、自己負担が生じることには抵抗が大きいようである。アンケートの中でも、任地で JOCV や他国からのボランティアに比べ自分たちは不利な環境にあると感じた旨の記述も見られた。実際に JOCV では負担がないばかりか、国内積立金まで支給される。国として学生の国外実務支援を行うのであれば、少なくとも学生の個人負担を無くす事が必要ではないだろうか。また、より多くの大学が国連学生プログラムに参加するにしても、

<sup>14</sup> 例として、関西学院大学の学生の立場を想定し、交換留学や UNSV プログラムの条件を記述した。



現行のままでは大学負担が大き過ぎよう。

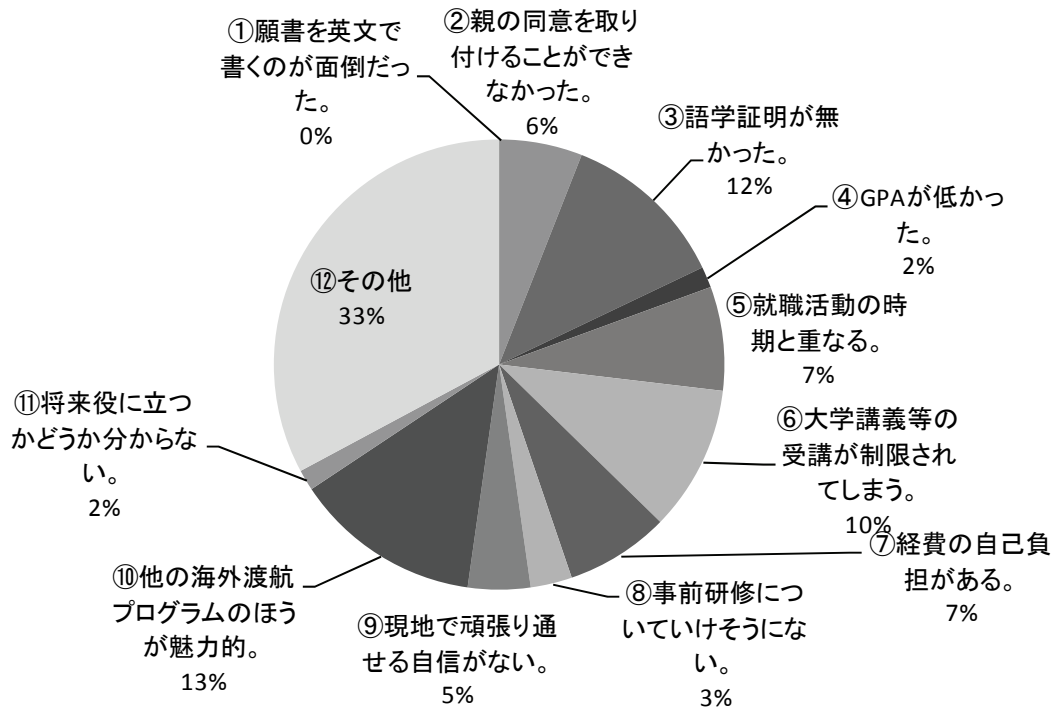


図1 UNSVへ出願に至らなかった理由

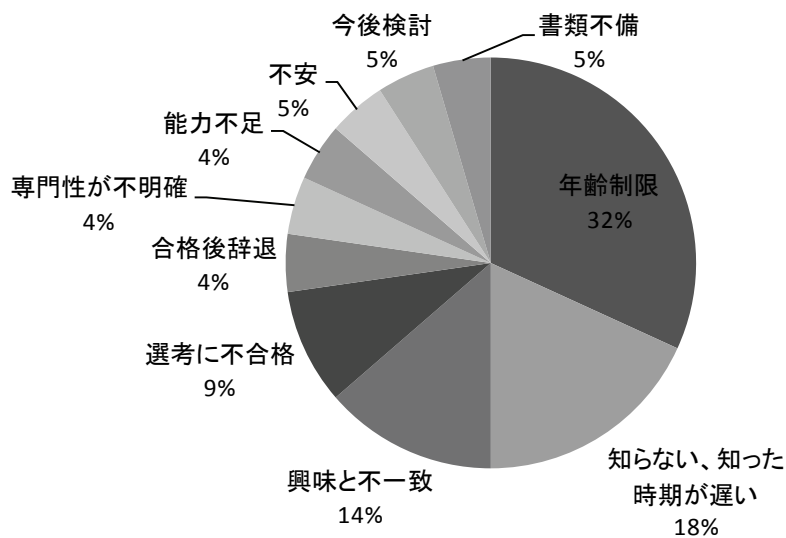


図2 図1における「その他」の内訳

表 2 学生からみた海外渡航プログラムの比較

選択基準	交換留学	JOCV	UNSV
期間	1 学期～1 年間	原則 2 年間 <sup>15</sup>	6 ヶ月間
卒業への影響 (単位認定)	4 年間で卒業可 (単位認定制度あり)	休学参加が一般的 <sup>16</sup>	4 年間で卒業可 (学部生 16 単位)
費用負担	渡航費、生活費、保険他	全くなし	渡航費、現地生活費、保険他
支援	特になし	現地生活費、渡航費、共催保険、福利厚生他、国内積立金 (9 万円/月) も支給される	奨学金 30 万円
参加資格	語学、学業成績	案件により、経験、資格などを要求するものあり	語学、専門能力・経験、ボランティア経験、異文化対応能力
学習内容	語学、通常授業	国際協力事業	国際協力事業
今後への繋がり	国際派としての自信醸造	日本の ODA への登竜門	国際機関への登竜門
就職活動との兼合い	通常 2 年次に参加のため、問題なし。	復学後に就職活動	赴任前後に就職活動

<sup>15</sup> 近年、1 ヶ月程度の短期派遣もあり。

<sup>16</sup> 広島大学では大学院で単位認定制度あり。